

わが

公民連携を駆使し、「こどもを核としたまち」の実現へ

三田市は、美しい農村風景、ニュータウンのまちなみ、にぎわいのある市街地そして四季折々の自然が融合する素晴らしいまちと多くの人から評価されています。農畜産業も盛んで、三田牛や黒枝豆、三田米、母子茶^{もうち}などの特産品があります。これら素晴らしい

特産品を多くの人に認知してもらうことが今後の課題です。

また、複数の高速道路ネットワークの結節地点であるため、商工業地として最適な産業団地に50数社の企業が進出しています。市内で操業

する企業とさまざまな連携事業を進めることで「公民連携先進都市」というメッセージを打ち出し、発信していくことが重要だと考えています。

「公民連携先進都市」を目指した取り組み

「公民連携」は、本市のまちづくりを行う上で、欠かせない手法です。私は、市長就任以降、公民連携先進都市を目指し、スピード感を大事にしながら自らセールスマン、時にはコーディネーターとなり、企業人と話のできる市長として数々の事例を実現してきました。公民連携にあたっては、公平性、公正性を確保しつつ、民間事業者などとの対等なパートナーシップのもと、互いの強みを生かしながら進めており、その連

携手法はさまざままで全てオーダーメイド的な協定となっており、より実効的な運用となっています。

特徴的な取り組みとして、神姫バス株式会社と進めている「担い手共創プロジェクト」があります。これは、「公共交通の担い手確保」を推進することを目的とした連携

協定です。この目的に賛同いただき、「担い手共創プロジェクト」として2団体が参画しています。参画団体の一つである「兵庫ブルーサンダーズ」は、本市を拠点とする女子硬式野球の実業団チームで、選手は市内のさまざまな企業などで働きながら、野球を続けています。私は、社会人野球とリクルートの青田買いをヒントに、このスキームを考えました。選手は企業人との両立を前提で就職します。存分に野球に取り組み、引退



公共交通維持のための担い手共創プロジェクト

後に企業に専念するという一方で、「担い手共創プロジェクト」はこういった団体ニーズに合致したのです。

また、神戸大学との包括連携協定では医療人材確保や、未来の子どもたちのために急性期医療を担う人材の確保、本市農畜産物のブランド化へ向けての検証など、幅広い分野でタッグを組み取り組んでいます。その他にも、市民の命を守るための多数企業との災害協定や、ニュータウンの再生に向けたイオン株式会社との包括連携協定およびイオンリテール株式会社



豊かな自然と里山に囲まれた農村地域

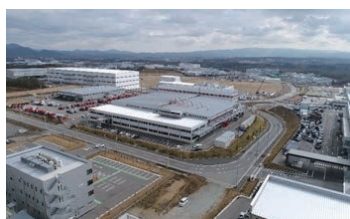


美しいまちなみのニュータウン

などとの個別協定を締結していきます。このように、あらゆる課題を公民連携の視点で解決し、「新たな価値を創造する」「地域を活性化する」という信念をもつて取り組みを進めているところです。

こどもを核としたまちづくりで住みたい・住み続けたいまちに

本市は、子ども・若者がこのまちに住み、生涯にわたって住み続けることに「不安」ではなく、「希望」を持てるまちを目指す「こどもを核としたまちづくり」を進めています。本市の人口は現在約10万6000人ですが、令和16年度には1万人減少することに加え、75歳以上の人口は約6000人増える一方、20歳から74歳までの人口は1万人以上減少するという危機



多くの雇用を生み出している産業団地

ば最大50万円支給しています。これまでの支給額から大幅に増額しており、成果が出てきているところです。これは企業の働き方改革にも資するものと考え、近くに住むことで

的な状況になると見込んでいます。こどもを核としたまちづくりの実現に向けて、まず子育て世代に圧倒的に多い「経済的不安」を軽減し、子育て世代の定住促進や、子どもたちが健やかに育つ環境を整えるため、令和7年度は、中学生の給食と18歳までの医療費の完全無料化に加え、不妊・不育治療、新生児・1カ月児の健診の無料化など妊娠から子育て期まで切れ目のない支援を行うことで子育てへの安心感を訴求しました。

移住・定住については、本市には産業団地の企業や市内にある大企業などに約1万人が働いていて、その約半分の従業員が市外から通勤しているという実態があります。そこで、市外からの通勤者に移住してもらったら良いのではないかと発想し、市外からの通勤者が本市に住居を購入し、転入すれば

企業にとっても、従業員にとっても、本市にとってもメリットがあり、まさに「三方よし」の発想です。

最後に

三田市は、多くの魅力が詰まった味わいのあるまちです。多くの

プロフィール

- ◆ 面積 210.32 km²
- ◆ 人口 10万5981人
- ◆ 世帯数 4万7739世帯

〔将来都市像〕まちづくりの基本目標を「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市三田」と掲げ、本市がもつ「ひと」「まち」「さと」の魅力を一枚の布のように織りなすことで新たな魅力を生み、育てるとともに、先端技術や新たな価値観等を取り入れた未来都市

〔まちの特徴〕兵庫県の南東部に位置し、市の南東部には耕作地のある三田盆地が開け、市内を貫流する武庫川が肥沃な農地を潤し、豊かな自然に恵まれている。市街地、農村、ニュータウン



三田市長 田村克也



市民が「このまちに住んでよかった」と実感でき、また、三田に「住んでみたい」と思ってもらうため、トップセールスにより「さんだ」を積極的に発信するなど、スピード感をもって全力投球で取り組んでまいります。

〔特産品〕三田米（コシヒカリ・どんとこい・ヤマフクモチ（もち米）・山田錦）・畜産業（三田牛）・三田うど・黒大豆枝豆・さんだくり南瓜・山の芋・極ぶとくん（ねぎ）・さんだいちご・母子茶など

〔観光〕県立有馬富士公園、千丈寺湖、ガラス工芸館、永澤寺と花しょうぶ園、花山院、人と自然の博物館、野外活動センター

〔イベント〕三田さくらまつり、さんだまち博、ノルディック・ウォーキングフェスタ、三田まつり、三田マスターズマラソン、サンタ×三田プロジェクト

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。